

成人麻疹を発症した2型糖尿病の1例

野 津 和 巳

キーワード：成人麻疹，2型糖尿病

要 旨

成人発症の麻疹は肺炎，脳炎などを合併し，重篤化しやすいことが知られている。今回2型糖尿病の58歳女性例に，成人麻疹の発症を認めた。発熱，皮疹で来院。麻疹IgM抗体が陽性で，成人麻疹と診断した。安静，アセトアミノフェン治療などにより重篤化せず改善した。発症前のHbA1c値は8%台で，血糖コントロールは不良であった。糖尿病例における易感染性，免疫力の低下に注意が必要である。

はじめに

麻疹は成人発症例では，脳炎・肺炎などを併発し，重篤化しやすいことがよく知られている。2007年春ころから，成人麻疹の発症例が，関東地方を中心に多数報告された（図1）。今回，皮疹と発熱を主訴に当クリニックを受診した2型糖尿病の症例を経験した。

症 例

症例は58歳女性。主訴は発熱と全身性の皮疹。家族歴に特記すべきものはなく，糖尿病もない。最近家族に麻疹罹患例なし。既往歴には特記すべきものはない。麻疹の既往については不明。麻疹ワクチンの接種の既往も明らかではなかった。

現病歴は，およそ10年前から糖尿病を指摘され，近医で経口血糖降下剤を処方されていた。食事療法などが不十分で，HbA1cは8%台で，血糖値のコントロールは不良であった。2007年6月4日から発熱があり，顔面を除く全身性に皮疹が出現した。翌5日，当クリニックを受診した。口渇，多飲，多尿，視力障害，しびれ，体重減少などの自覚症状は認めなかった。

現症は，身長156cm，体重53.8kg，BMIは22.1kg/m²であった。体温は37.1℃，血圧は155/81mmHg，脈拍は88/分で整であった。顔面を除く四肢・軀幹部に小赤色皮疹を認めた。貧血，黄疸なし。咽頭発赤を軽度認めたが，扁桃腺腫大はなかった。コプリック斑も明らかでなかった。甲状腺腫大なし。頸部リンパ節の腫大もなかった。胸腹部には，皮疹以外に特記すべき異常所見を認めなかった。下肢浮腫なし。

来院時の一般検査成績では，末梢血で，白血球

Kazumi NOTSU

大学前のつ内科クリニック

連絡先：〒690-0825 松江市学園2丁目27-17